



参考文献

「小さな人生論  
ポケット名言集」  
藤尾秀昭

# 過去が咲いてる今 つぼみ 未来の蕾で一杯な今

先日、私立高校の専願奨学特待等の入試がありました。その前には事前指導があり、三年部の先生方は大事なポイントを丁寧に指導されていました。それぞれの高校ごとに別れ、もしものトラブルがあった場合に対応できるよう、高校側が設定する集合時刻の三十分前に西南中の集合時刻を設定して伝えていました。

いざ当日、どの会場でも、もしものトラブルもなく、受験した全員が集合時刻前に揃い、心を整えた状態で校舎に入っていたそうです。毎日の学校生活の中で、「全員八時正門通過」を目標に過ごしていた成果が現れたのだと思い、嬉しく感じました。

しかしながら、普段の学校生活では、特に年が明けて寒さが厳しくなつてからは、八時に間に合わない生徒が増えてきました。再開して三週間目にも関わらず、すでに半分以上の日数を遅れて登校しています。

なぜ私たちは、時間に遅れてくる生徒を指導するのでしょうか？寒い中、待たされているから指導するのでしょうか？違います。

子どもたちの将来に「つけ」を残さないためです。

卒業して、子どもたちがこの社会に進もうと、相手と時間を約束して、それを大切にできない人は、いつかは信用を失い、あてにされなくなります。

他者に「あて」にされなくなり、自分がそこにいってもいなく

ても構わない…となることほど、人は辛いものではありません。そうなつてしまった人は、とても「不幸」です。

保護者や私たち教師等、子どもたちを教える育む大人の一番の目標は、「子どもたちを“幸せ”にすることです。」

決して、不幸にたくありません。

「具体的にどうするの？」と尋ねられたら、信念を持って、「悪い習慣を良い習慣に変えること。」と答えます。

時間を守ることにしても同様です。子どもたちの将来に、「つけ」を残さないように、悪い習慣があつたら、大人はその習慣を変えてあげようと努力するのです。「今」というこの時期に、たとえ嫌われても、分かってもらえなくても、大事なことを心にすり込んでいくのです。

二年生にとっては、中学校生活もあと1ヶ月半。頑張っている人にとっては、まさしく今というのは、「過去が咲いている今」

「未来のつぼみが一杯な今」  
と言えるでしょう。この言葉は、陶芸家・河井實次郎さんの言葉です。とても勇気と希望を与えてくれる言葉です。

しかし、その反面、「あなたはちゃんと今を生きていますか？」と反省を促すような言葉のようにも感じるので。

今のあなたは「頑張った過去の花が咲いていますか？」

「これからを見据えて、しっかり準備していますか？」

そう、みんなに訴えているように思えてならないのです。